

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

| 30年度の 成果測定指標 | 単位 | 30年度の目標値 | 30年度の実績値 |
|------------------------|----|----------|----------|
| 千里ライフサイエンスセミナーの広域的参加者率 | % | 20 | 19.6 |

| | |
|-----------|--|
| 未達成の要因と分析 | <p>・集客力の高いセミナーになるよう努めたが、テーマによりセミナーの参加者数が増減しており、広域的参加者率も16%～22%と差が生じた結果、30年度全体では目標の20%をわずかに下回ることとなった。なお、16%と広域的参加者率が最も低いセミナーは、大阪北部地震発生直後の開催であったため、遠方からの来阪を自粛したことが考えられる。</p> |
|-----------|--|

| | |
|---------|--|
| 今後の改善方策 | <p>・広域的参加者率を高めるためには、時間・経費を使っても参加したいと考える魅力あるテーマ、講演者の選定が必要である。</p> <p>・そのため、企画委員会においてはタイムリーな旬のテーマとそれに相応しいコーディネーターを選定するとともに、各コーディネーターが研究者の関心の高いテーマ構成の実施と最新情報を提供できる講演者の選定を行い、集客力の高い魅力あるセミナーを開催していくこととする。</p> |
|---------|--|

〔2〕

| 30年度の 成果測定指標 | 単位 | 30年度の目標値 | 30年度の実績値 |
|-----------------|----|----------|----------|
| 岸本基金研究助成応募件数 | 件 | 275 | 234 |

| | |
|-----------|---|
| 未達成の要因と分析 | <p>・概ね一貫して増加してきた応募件数が、平成30年度は前年度より14%減となった。</p> <p>・これは、全国的に博士課程への入学者が減少しており、ライフサイエンスの若手研究者、即ち、応募資格者（40歳未満）の絶対数が減っていることが背景にあることも一因と考えられるが、現時点で原因は特定できておらず、類似の助成制度の新設の有無等について確認をすすめる。</p> |
|-----------|---|

| | |
|---------|--|
| 今後の改善方策 | <p>・応募論文の水準を確保するには一定数の応募件数が必要であることから、減少傾向が加速することのないよう、引き続き、HPや学会誌等への掲載を通じた周知を行っていく。</p> <p>・また、従来、関西の主な大学の医学部、薬学部及び大学院の医薬系研究科を対象に、その学部長、研究科長に応募要領を送付し、推薦依頼を行ってきたが、ライフサイエンスに関する研究を行っている理学部、工学部系研究科を精査し、新たに推薦依頼の案内を送付することにより、本研究助成の周知と応募を促す。</p> |
|---------|--|

■ 目標値未達成の要因について

〔3〕

| 30年度の 成果測定指標 | 単位 | 30年度の目標値 | 30年度の実績値 |
|-----------------------|----|----------|----------|
| 「SENRIの会」での研究 発表件数 | 件 | 7 | — |

| | |
|-----------|---|
| 未達成の要因と分析 | <p>・「SENRIの会」については、経営目標を策定した30年度当初の時点では、例年どおり実施することを予定していたが、30年8月に開催した企画委員会（ライフサイエンスにかかる大学、研究機関、製薬会社等の第一線の研究者で構成）において、</p> <p>✓「SENRIの会」は岸本基金研究助成を授与された若手研究者と企業研究者が直接情報交換を行い、相互理解を深め実用化への共同研究を進めるきっかけづくりとなることを目指したものであったが、過去8回の開催で具体的に共同研究に至ったものがない。</p> <p>✓岸本基金研究助成が基礎的な研究を対象とし、実用化に繋がる研究をターゲットにしていないことによる企業側とのミスマッチは避けがたい。</p> <p>などの指摘があり、事業を継続する必要性について議論が及んだところ。</p> <p>・改善の工夫も難しく、年度途中ではあるが30年度からの事業終了を決定したため、実績がない結果となった。</p> |
|-----------|---|

| | |
|---------|---|
| 今後の改善方策 | <p>毎年の事業計画や経営目標については、前年度の事業の状況を十分評価した上で策定するよう努める。</p> |
|---------|---|

〔4〕

| 30年度の 成果測定指標 | 単位 | 30年度の目標値 | 30年度の実績値 |
|--------------------------|----|----------|----------|
| 「SENRIの会」への製薬 企業の参加者数 | 人 | 20 | — |

| | |
|-----------|----------|
| 未達成の要因と分析 | 上記〔3〕に同じ |
|-----------|----------|

| | |
|---------|----------|
| 今後の改善方策 | 上記〔3〕に同じ |
|---------|----------|

■ 目標値未達成の要因について

〔5〕

| 30年度の 成果測定指標 | 単位 | 30年度の目標値 | 30年度の実績値 |
|----------------------|----|----------|----------|
| 千里ライフサイエンスフォーラムの参加者数 | 人 | 800 | 690 |

| | |
|------------------|---|
| 未達成の要因と分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度から8月を休会としたこと、また6月開催分が大阪北部地震により中止となったため、平成30年度はフォーラムの開催回数が従来の12回(毎月1回)から10回へと開催回数が2回少なくなり、参加者数は目標値より大きく減少した。 ・8月を休会にしたのは、盛夏の時期の開催による高齢参加者への体調面に配慮したものである。なお、目標設定時には8月休会は決定しておらず、従来どおりの年12回開催で目標値を設定した。 ・なお、平成30年度の参加者総数は目標に達しなかったものの、10回開催換算では1回当たりの参加者数(69人>67人=800人/12回)、総数(690人>670人=67人×10回)とも目標値を上回っている。 |
|------------------|---|

| | |
|----------------|--|
| 今後の改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、従来同様、魅力あるテーマ選定に工夫を凝らすとともに、フォーラム会員の増に向け、地域の医師会や薬剤師会等の医療関係団体、大学の医学部・薬学部同窓会の広報媒体を活用し、引き続き会員募集のPRに努める。 |
|----------------|--|

〔6〕

| 30年度の 成果測定指標 | 単位 | 30年度の目標値 | 30年度の実績値 |
|--------------------|----|----------|----------|
| ホームページ総アクセス件数(月平均) | 件 | 12,200 | 10,491 |

| | |
|------------------|--|
| 未達成の要因と分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度実績は、目標値より下回った(1,672件/月)が、これは前年度までHPに掲載していた実用化支援事業のセミナー、交流会等の募集案内が平成30年度からなくなったこと、従前よりセミナー講演の動画配信を断る講師が増えたことが要因と考えられる。 |
|------------------|--|

| | |
|----------------|---|
| 今後の改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・新たに「市民公開講座」の動画配信等魅力あるコンテンツの掲載を検討するとともに、時宜にかなった最新情報の発信に努め、ホームページのより一層の充実に努める。 ・また、近畿経産局等公的団体に対し、当該HPのイベント情報ページにセミナー等の財団行事の掲載依頼を行うとともに、財団HPの無料リンク先の拡大に努め、メール会員の増を目指す。 ・セミナーの動画配信には講師との著作権の調整が不可欠であり、そのため配信に時間がかかったり、配信自体が許可されない場合があることから、セミナー開催後、より速やかに動画配信できるよう、引き続き講師との調整に努めるとともに、今後は動画配信のアップ情報についてもメール会員に速やかに配信することとする。 |
|----------------|---|